

岸和田城周辺地区

(大阪府岸和田市)

- 計 画 期 間 平成 22 年度～25 年度
- 面 積 76 h a
- 交付対象事業費 376 百万円
- 市人口 199,753 人 (地区内人口 14,969 人)
(H27.4.1 現在)

ポイント 「まち歩き観光」というスタイルに着目し、コンパクトなエリアにまとめた「地域資源」を「観光資源」として内外に広く発信する。

地区概要 集積する「地域資源」を面につなげ、来訪者を迎える施設や仕組みの整備、及び内外への発信により、来訪者の増加を図るとともに、地域の活性化を実現する。

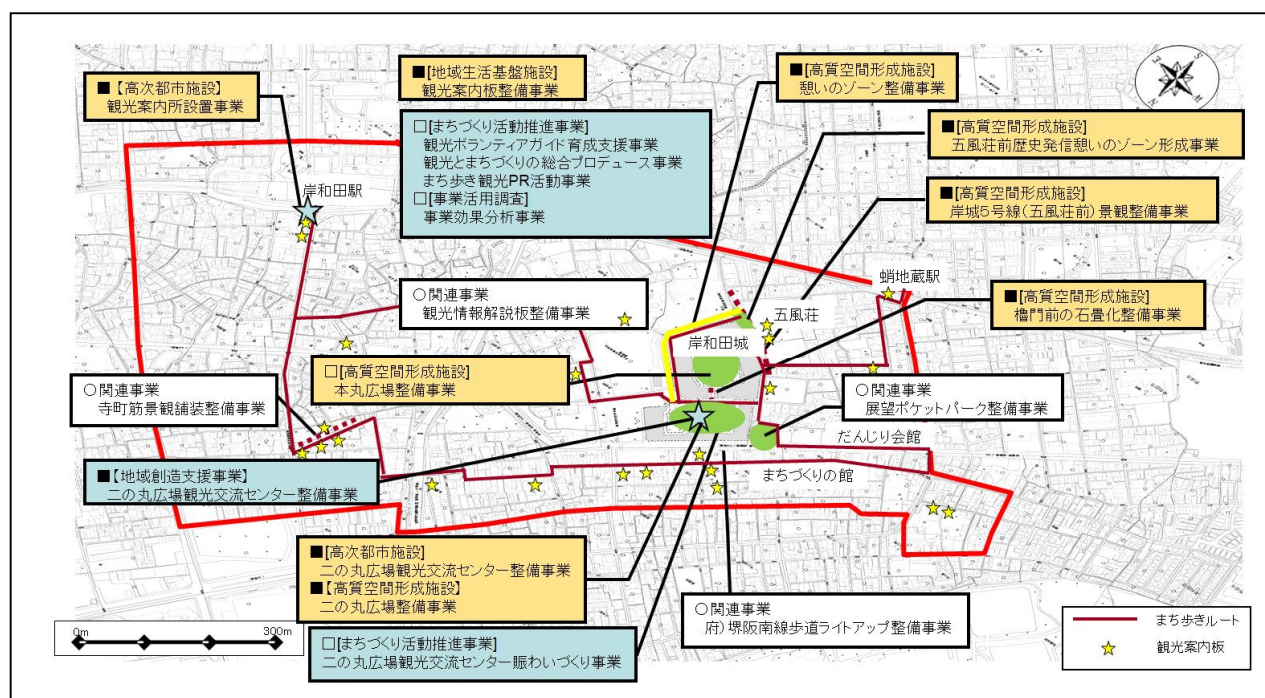
目 標 地域資源を磨き、つなぎ、内外に広く発信しながら地域に暮らす人々と来訪者が交流する賑わいのあるまちづくりを目指す。

指 標 来訪者増加の指標、まち歩き観光促進の指標及び地域活性化の指標として設定した。

岸和田城 入場者数	32,381 人 (H20)	→	35,500 人 (H25)
まちづくりの館 利用者数	11,532 人 (H20)	→	13,300 人 (H25)
ボランティア ガイド登録者数	30 人 (H20)	→	40 人 (H25)

事業内容

- 基幹事業 (272 百万円) → 観光案内板整備事業、観光案内所設置事業、二の丸広場観光交流センター整備事業、憩いのゾーン整備事業、本丸広場整備事業等
- 提案事業 (104 百万円) → まち歩き観光PR活動事業、観光ボランティアガイド育成支援事業、二の丸広場観光交流センター賑わいづくり事業等



地区の現況と課題

岸和田城周辺の地域資源を内外に広く発信することで、認知度が向上し、地区内の賑わいの創出につながっている。

ハード事業を活かしたソフト事業の継続実施及び情報発信の強化により、来訪者のさらなる増加につなげ、地域の人々との交流による賑わいづくり及び地域活性化の促進に取り組む必要がある。

また、当事業を契機に培われた、市と地元団体との協働・地元団体のまちづくりへの意識高揚・市民と来訪者との交流を継続的なものとしていくことが重要である。

提案事業の特徴

まち歩き観光PR活動事業

「岸和田城周遊まち歩きキャンペーン」の実施や観光まち歩きマップ（右図）・多言語マップの作成など、地域の実情を踏まえ、観光とまちづくりを総合的にプロデュースし、一体的なまちづくりを推進した。

観光ボランティアガイド育成支援事業

まち歩き観光客は、地域の人しか知らない地元の生活に密着した文化・歴史などへの関心が高く、地域の実情を熟知するボランティアガイドを活用することが多い。ボランティアガイドの体制を整備するため、養成講習会や研修会等への参加支援を実施した。

二の丸広場観光交流センター賑わいづくり事業

来訪者へのホスピタリティ向上のため、観光情報の発信だけでなく、交流・休憩スペース、物産品の展示・販売スペース、飲食提供スペースを併せ持つ観光交流センターを整備し、来訪者の増加による賑わいづくりを創出した。

計画策定プロセス

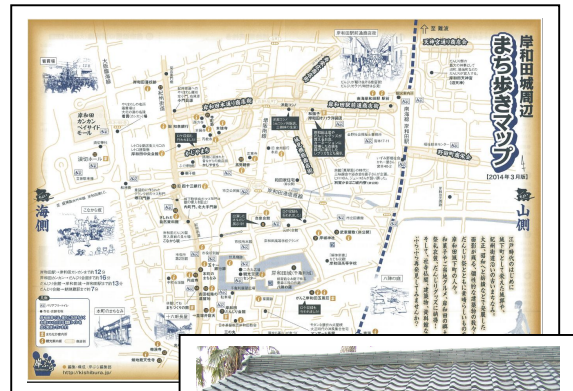
岸和田城周辺まちづくり協議会の設立

住民参加のプロセスとして、地元町会長や本町のまちづくりを考える会、岸和田商工会議所、岸和田ボランティアガイドなど、まちづくり関係団体で構成され、岸和田城周辺のまちづくりについての情報の共有・発信・意見交換、さらには事業の連携等を通じ、まちの賑わいづくりの取り組みを推進することを目的として設立された。

市が作成した整備計画に対する多様な意見を集約し、計画に反映すべき点は反映し、事業の推進を図った。



▲快適性が向上した岸和田城堀端



ボランティア
ガイドの
活動風景



▲協議会を設置し、多様な意見を集約

信貴芳則 岸和田市長のコメント

本市は、だんじり祭で全国的に知られています。岸和田城を中心とした周辺地区内には、美しい回遊式日本庭園を有する五風荘、旧街道である紀州街道、町屋が並ぶ本町のまちなみといった地域資源とともに、岸和田だんじり会館やまちづくりの館などの観光施設が集約しています。当地区の地域資源がいずれも徒歩圏内であること、関西国際空港に近く都心からも利便性が高いという地理的環境を活かし、「立ち寄り観光」や「まち歩き観光」といった新たな観光スタイルに着目し事業を進めてまいりました。これまでの取り組みを高く評価していただいたことに深く感謝を申し上げます。今後もさらなる賑わいの創出を図るべく、市民との協働によるまちづくりを推進してまいりたいと考えております。

岸和田城周辺まちづくり協議会 吉野富博 会長のコメント

我がまち大阪の南部地区は、海あり山あり歴史あり、府下では唯一お城のあるまちです。慶長2年（1597年）岸和田城天守閣が竣工しました。（1827年焼失後、1954年再建）

だんじりでは世界的に有名ですが、山手地区においては天平時代、弥生時代、また縄文時代まで遡ることが出来ます。江戸期には陽明学の権威である岸和田藩の相馬九方の元へ吉田松陰が訪れた事があり、また新島襄も来岸しています。こんなロマンに満ちたまちでの「石畳と淡い街灯まちづくり」事業が終了しました。機会があれば一度お越しいただければありがたく思います。

岸和田ボランティアガイド 高木義廣 会長のコメント

岸和田城の堀端の石畳化などによる遊歩道の整備や観光案内板の設置により、案内がしやすくなり、これまで以上にまち歩きを楽しんでいただいております。また、景観にも配慮した取り組みがなされ、多様なまち歩き周遊ルートが確立したことから、利用者のニーズにあった案内が可能となりました。土日祝には、岸和田城及び岸和田だんじり会館にガイドを常駐させることで利用促進を図り、来訪者との交流を通じて城周辺の歴史と伝統にあふれた豊かな地域資源の魅力発信に取り組んでいるところです。